

ウッド・チェンジ・ネットワーク 第2回会合 議事概要

開催日時:平成 31 年 4 月 24 日(水)15:00~17:00

場 所:農林水産省第3特別会議室

概要:

会員企業・団体、国土交通省、林野庁並びに東京都(全国知事会国産木材活用プロジェクトチーム)より説明・話題提供の後、今後の取組の方向性について意見交換を実施。会員企業・団体からの主な意見は以下のとおり。

- 今後、建築物について、低層小規模、中規模ビル、木質化の別にワーキンググループにおいて具体的な検討をすることが適当。
- 市場規模、想定される立地、設計部材を明確にしたうえで目標になるような標準的な施工費や材料費、維持管理、一般流通材やプレカット材の活用、性能や品質、木造を選択する際の施主の考え方、木造化による地域の価値の向上などを、参加者がデータを提供し、分析することで、コストの上昇要因をはじめ木造化を進める際の課題が見えてくるのではないかと。
- 準耐火の建築物にも積極的なアプローチが図られるプロトタイプの実現に期待。
- 建物が小規模化している中、木造の低層小規模の検討は現実的。施工費を抑えるためのノウハウに関心。
- 中規模ビルにおいては、1500 m²周辺に一般流通材を活用できるかどうかの境目がありそうであり、検討対象とする面積の絞り込みをすることも一案。混構造を対象とすることも重要ではないかと。
- 内装木質化については、人の感性への影響、健康面や労働環境の改善の観点からの木材利用方法や維持管理に関心。無垢の内装材については、流通面にも留意が必要。外装木質化については、経年劣化等についての情報が重要。

- 木材利用へのインセンティブや、地球温暖化防止への貢献など国産材の活用による SDGs、ESG 投資に係るメリットが示せるとよいのではないか。
- 森林環境譲与税についての情報が重要。
- 減価償却の観点での木造建築物のメリットについては、丁寧な説明が重要。
- 地域材の利用は、設計段階から調達の準備が必要。最終的には、川上にフィードバックできるような取組とすることが重要。
- 木造が高いという印象や都市部における木造化に対して、施主への適切な情報提供を行うことが必要。

今後の取組は、低層小規模、中規模ビル、木質化の別に、参加者がノウハウを共有しつつ、ワーキンググループにおいて検討を進めることで一致。